

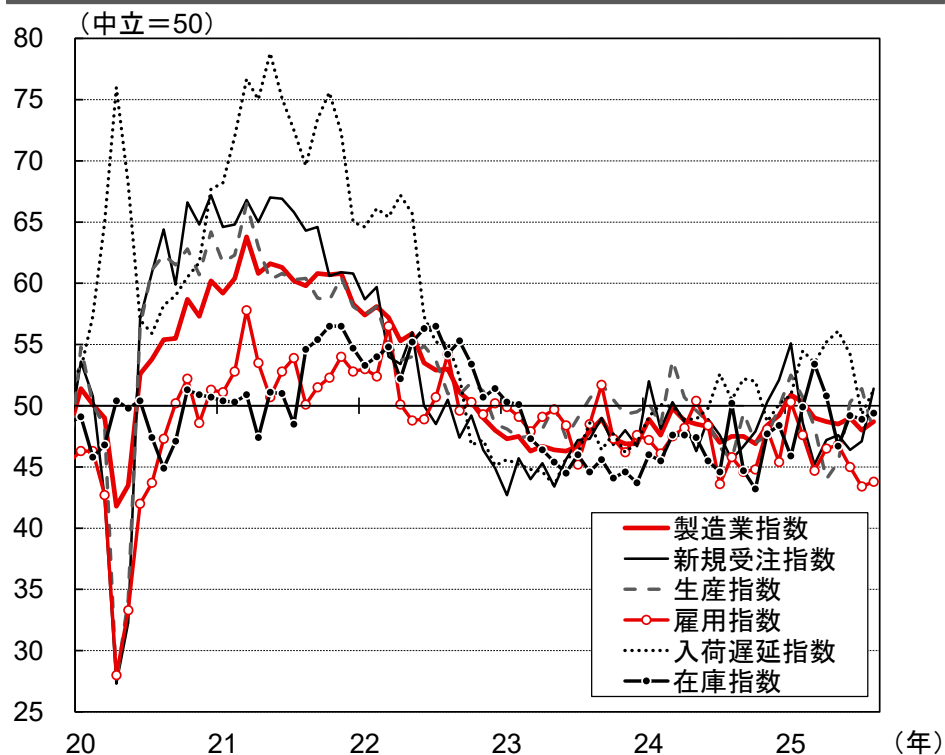
米国経済・金融概況 (2025年9月)

2025年9月19日
経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

1. 企業活動

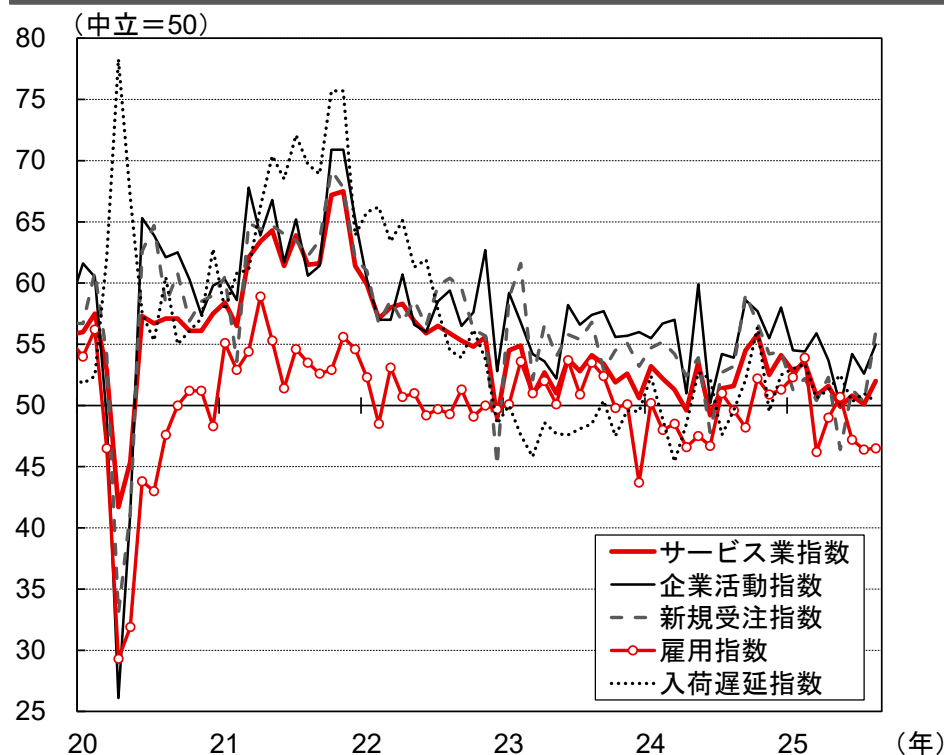
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、8月に48.7(前月比+0.7ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇。指数の構成項目をみると、先行指標の新規受注指数(51.4、同+4.3ポイント)が2ヵ月連続で上昇したほか、入荷遅延指数(51.3、同+2.0ポイント)、在庫指数(49.4、同+0.5ポイント)、雇用指数(43.8、同+0.4ポイント)も上昇。もっとも、回答企業の多くは、関税コストと不確実性について言及しているとISMは指摘。産業別では全18産業のうち7産業が拡大、10産業が縮小、1産業が横這いと前月から不変。
- 8月のISMサービス業指数(総合指数)は52.0(前月比+1.9ポイント)と2ヵ月ぶりに上昇。先行指標の新規受注指数(56.0、同+5.7ポイント)が大幅に上昇したほか、企業活動指数(55.0、同+2.4ポイント)、雇用指数(46.5、同+0.1ポイント)も上昇。もっとも、相互関税の引き上げを見越した前倒しの企業活動が指数を押し上げたとISMは指摘。産業別では全18産業のうち12産業が拡大、4産業が縮小、2産業が横這いを報告(7月は11産業が拡大、7産業が縮小)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

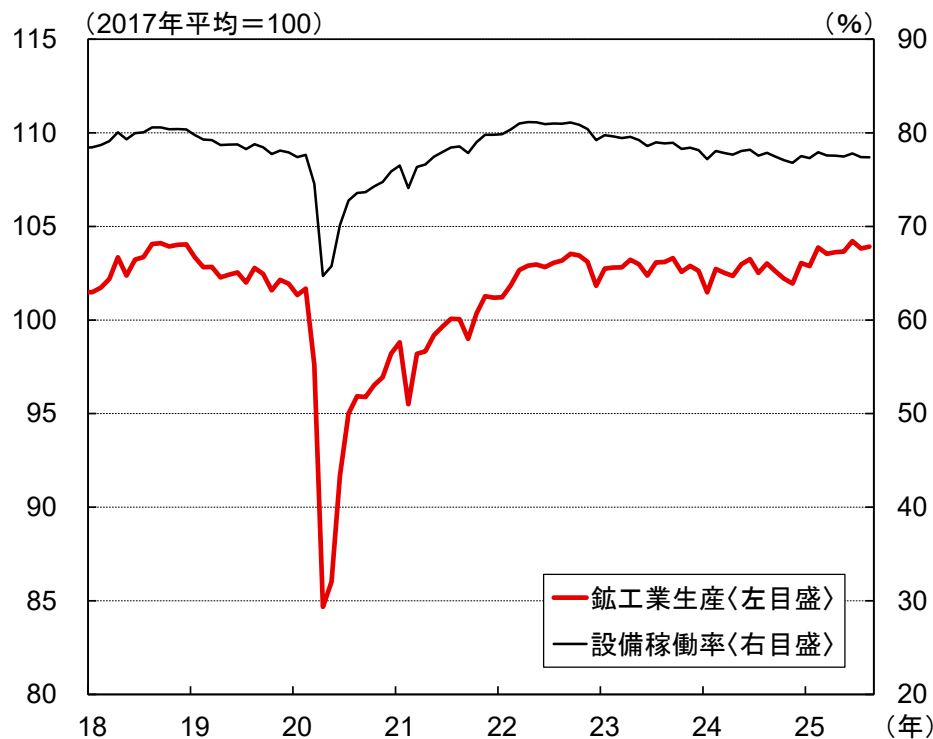


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 生産

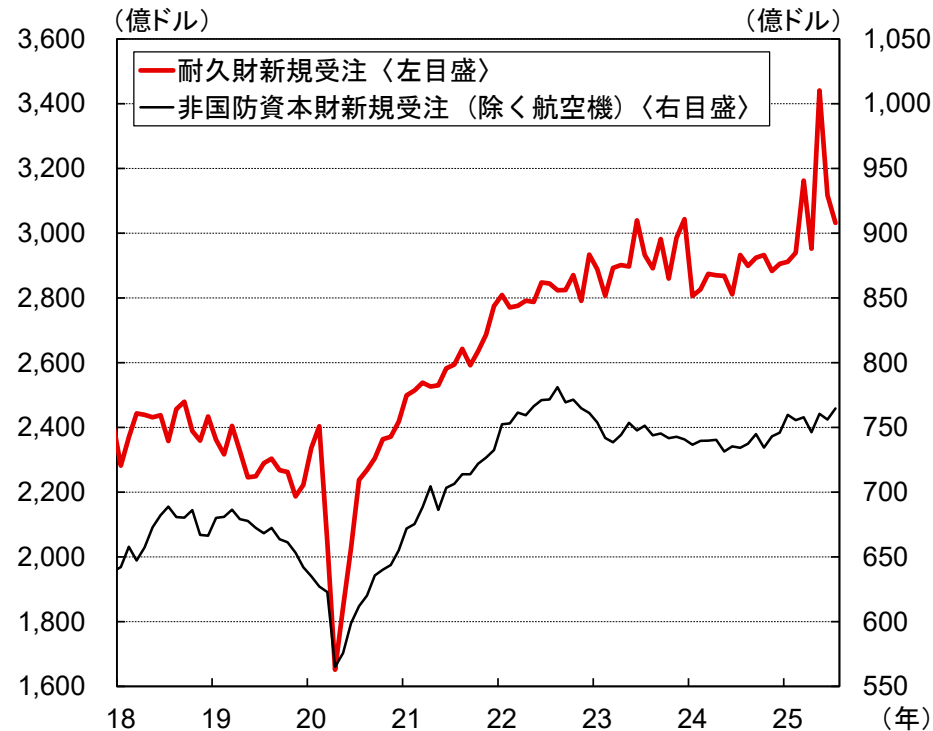
- 8月の鉱工業生産は前月比+0.1%と2ヵ月ぶりに増加。産業別では、全体の約7割を占める「製造業」が同+0.2%と増加。内訳をみると、「自動車・同部品」(同+2.6%)がEV購入補助終了(9月末)を前に大幅に増加。また、「鉱業」は同+0.9%と増加した一方、「公益事業(電気・ガス)」は天候要因により同▲2.0%と減少。8月の設備稼働率は77.4%と前月から不変。
- 7月の耐久財受注は前月比▲2.8%と減少。内訳をみると、変動の大きい「民間航空機」(同▲32.7%)が大幅に減少して全体を下押し。一方、「電気機器・家電」(同+1.9%)、「機械」(同+1.9%)、「一次金属」(同+1.6%)、「金属製品」(同+0.7%)、「自動車・同部品」(同+0.5%)等の幅広い業種で増加し、設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+1.1%と2ヵ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料) FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

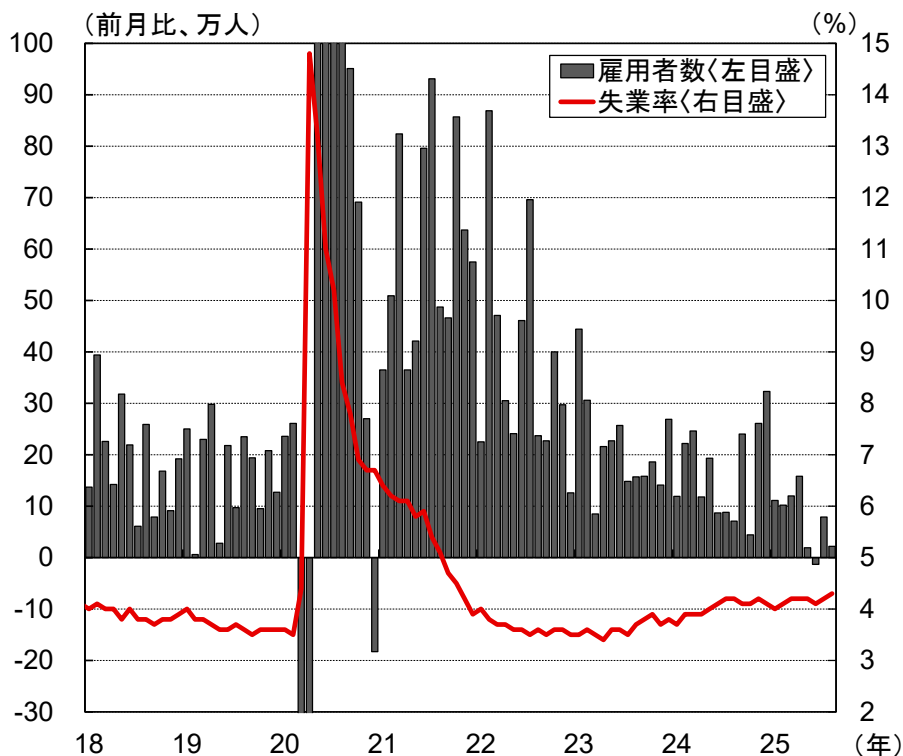


(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

3. 雇用

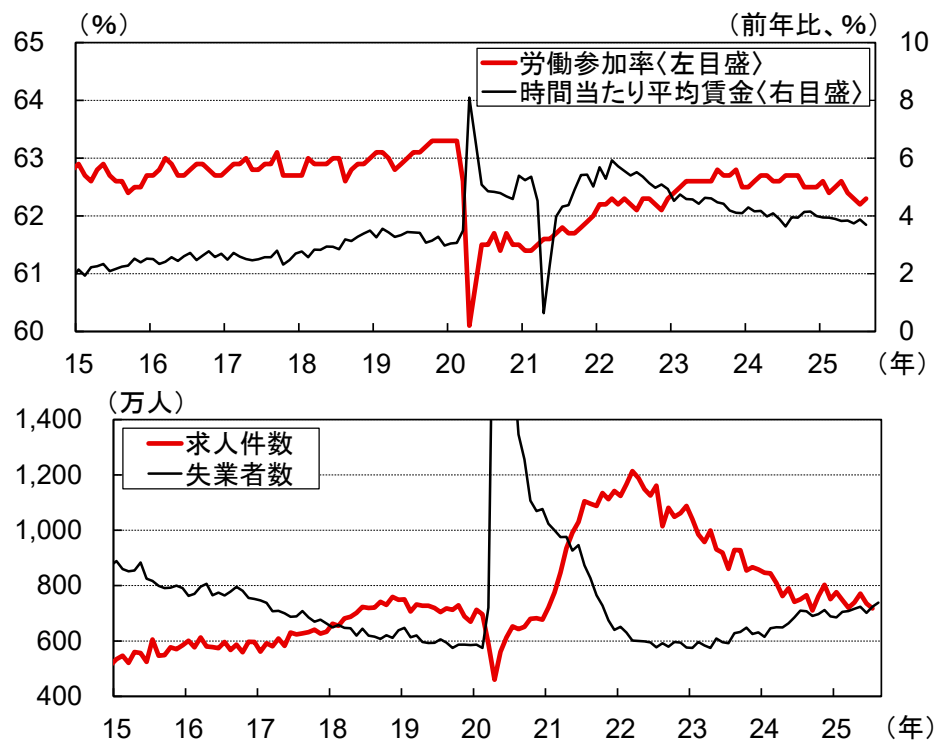
- 8月の非農業部門雇用者数は前月比+2.2万人(7月:同+7.9万人、改定値)と減速し、市場予想(Bloomberg集計:同+7.5万人)を下回る伸び。また、6月分は同+1.4万人から同▲1.3万人に下方修正され、2020年12月以来の雇用減少となった。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+4.7万人)、「レジャー・接客」(同+2.8万人)、「小売業」(同+1.1万人)が増加した一方、「専門・ビジネスサービス」(同▲1.7万人)、「政府」(同▲1.6万人)、「製造業」(同▲1.2万人)は減少。
- 8月の失業率は4.3%(前月差+0.1%ポイント)と2ヵ月連続で上昇し、労働参加率は62.3%(前月差+0.1%ポイント)と4ヵ月ぶりに上昇。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+3.7%と前月(同+3.9%)から鈍化。
- 7月の求人件数は718.1万件(前月比▲17.6万件)と2ヵ月連続で減少。求人件数を失業者数で割った求人倍率は0.99倍と前月(1.05倍)から低下し、2021年4月以来初めて求人件数が失業者数を下回った。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

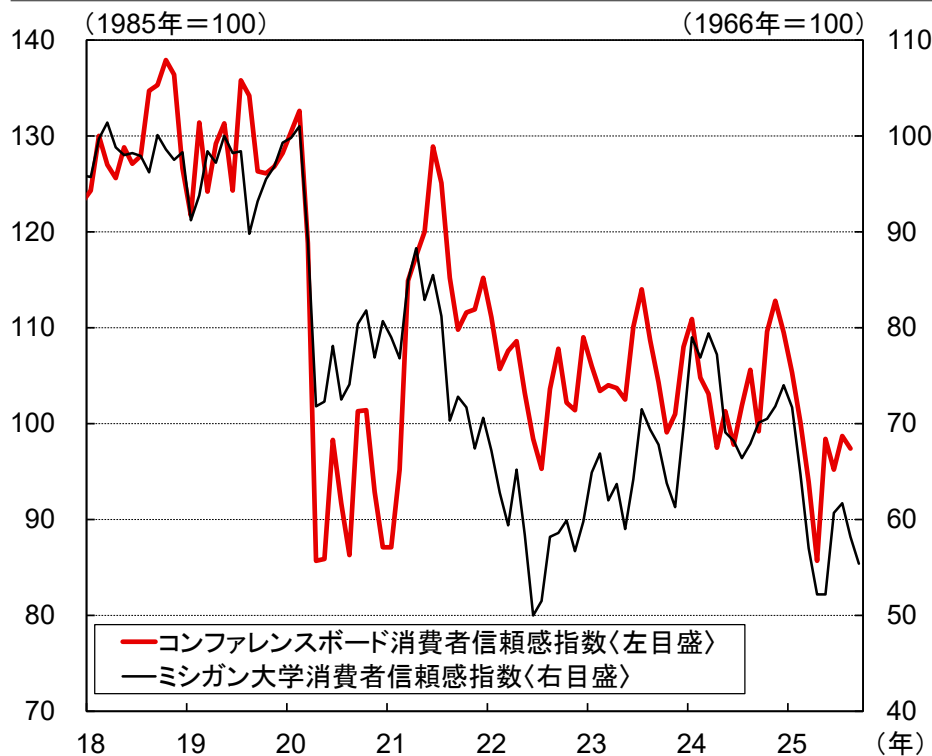


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 個人消費

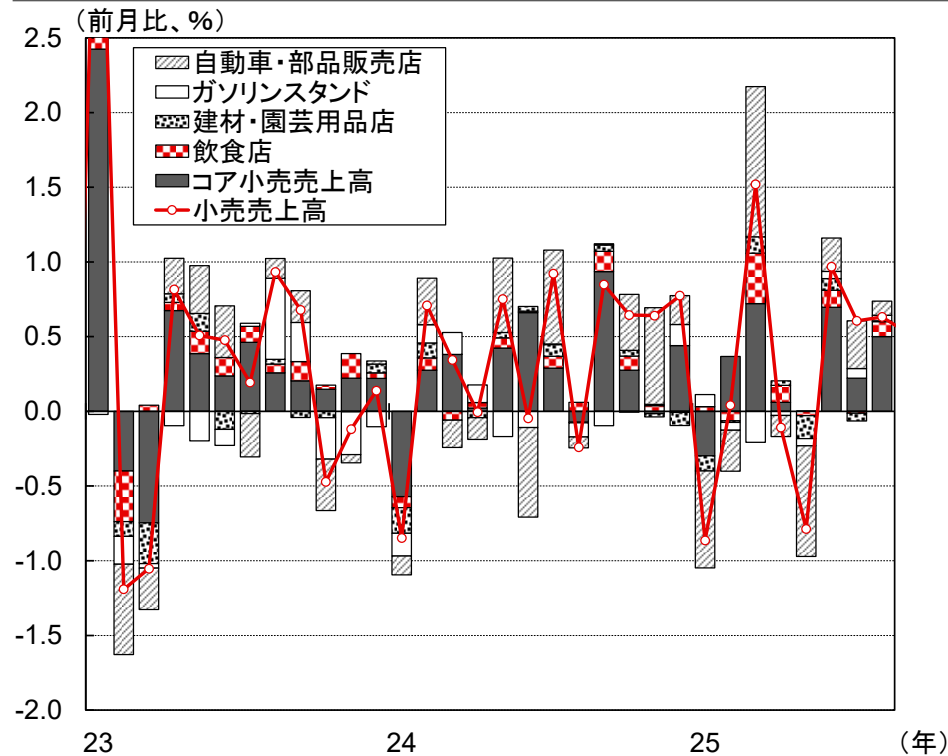
- 8月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は97.4(同▲1.3ポイント)と2カ月ぶりに低下、9月のミシガン大学消費者信頼感指数は55.4(前月比▲2.8ポイント)と2カ月連続で低下。ミシガン大学の期待インフレ率は、1年先が4.8%と前月から不変、5-10年先は3.9%(前月:3.5%)と上昇。
- 8月の小売売上高は前月比+0.6%(7月:同+0.6%、改定値)と3カ月連続で増加。また、「自動車・部品販売店」、「ガソリンスタンド」、「建材・園芸用品店」、「飲食店」を除いたコア小売売上高も同+0.7%(7月:同+0.5%)と堅調に推移。業種別にみると、「無店舗小売店」(同+2.0%)が大幅に増加したほか、「衣料品販売店」(同+1.0%)、「飲食店」(同+0.7%)、「自動車・部品販売店」(同+0.5%)、「電機・家電販売店」(同+0.3%)、「建材・園芸用品店」(同+0.1%)等も増加。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

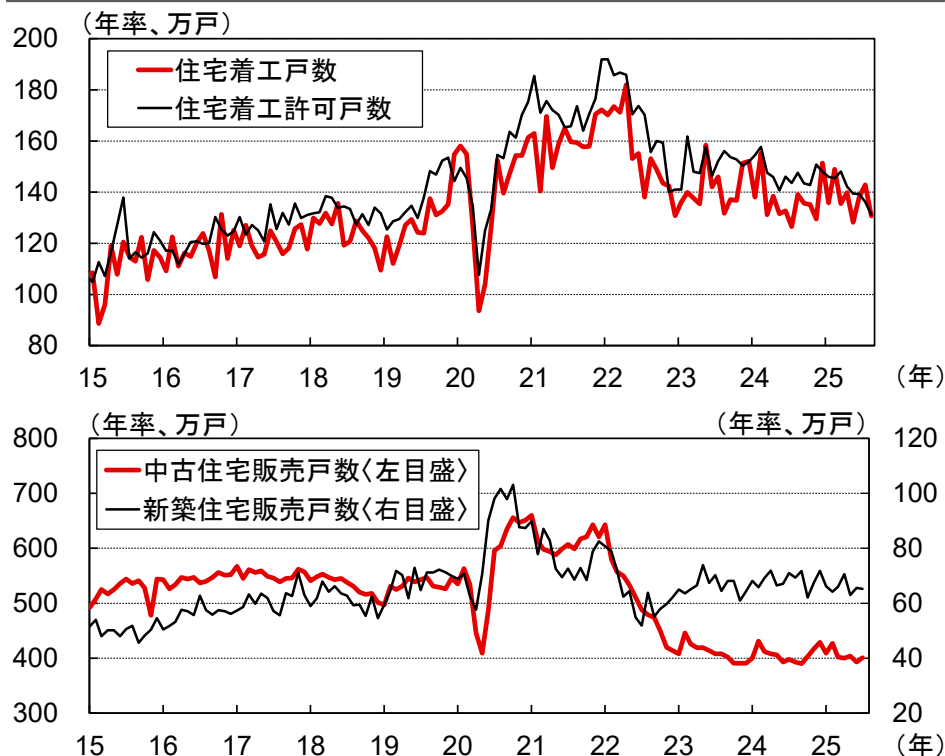


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

5. 住宅

- 8月の住宅着工戸数は前月比▲8.5%の年率130.7万戸(季節調整済)と3ヵ月ぶりに減少。内訳をみると、一戸建住宅は同▲7.0%の89.0万戸、変動の大きい集合住宅(5世帯以上)は同▲11.0%の40.3万戸とそれぞれ減少。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲3.7%の年率131.2万戸(季節調整済)と5ヵ月連続で減少。
- 7月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比+2.0%の年率401万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加した一方、新築住宅は同▲0.6%の年率65.2万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに小幅減少。
- 7月の住宅販売価格は、中古住宅が422,400ドル(中央値)、前年比+0.2%(6月:同+1.4%)と7ヵ月連続で伸びが鈍化。また、新築住宅は403,800ドル(中央値)、同▲5.9%(6月:同▲1.6%)と下落幅が拡大。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料) 全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 物価

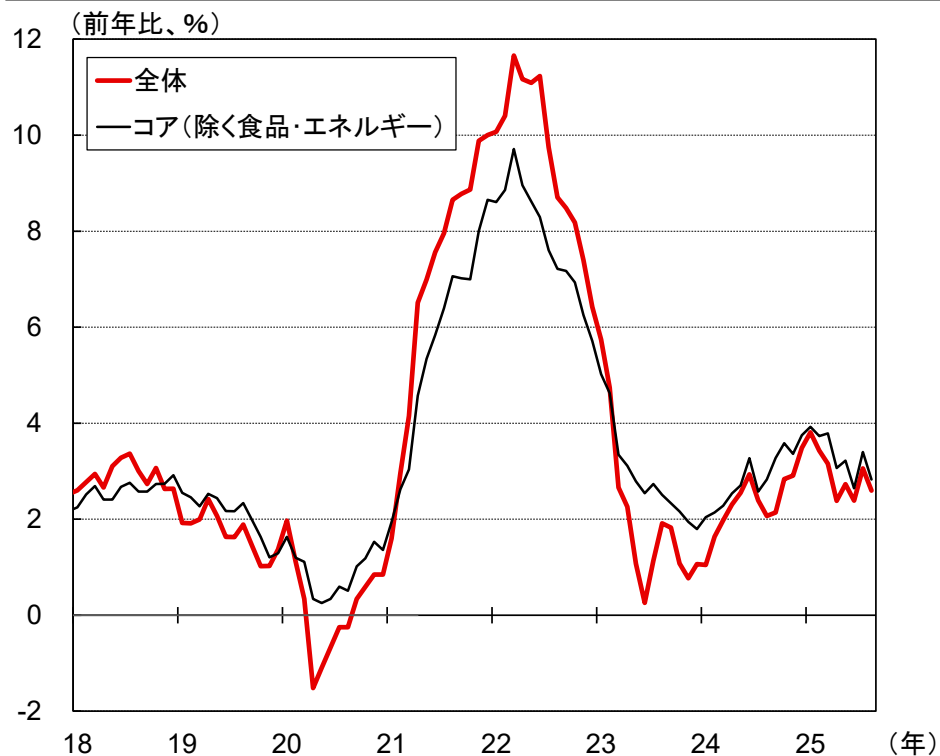
- 8月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.9%(7月:同+2.7%)と伸びが加速した一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.1%と前月から伸びは横這い。前月比では、総合指数は+0.4%(7月:+0.2%)と加速、コア指数は+0.3%と前月から横這い。コア指数の構成項目をみると、「中古車」が前月比+1.0%(7月:同+0.5%)と加速したほか、「新車」は同+0.3%(7月:同+0.0%)、「衣料品」は同+0.5%(7月:同+0.1%)と加速し、関税影響による価格上昇が進展しているとみられる。
- 8月の生産者物価指数は前年比+2.6%(7月:同+3.1%)、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.8%(7月:同+3.4%)とそれぞれ減速。内訳をみると、「財」は同+2.1%(7月:同+1.9%)と4ヵ月連続で加速し、「サービス」は同+2.9%(7月:同+3.7%)と2ヵ月ぶりに鈍化。

消費者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

7. 国際収支

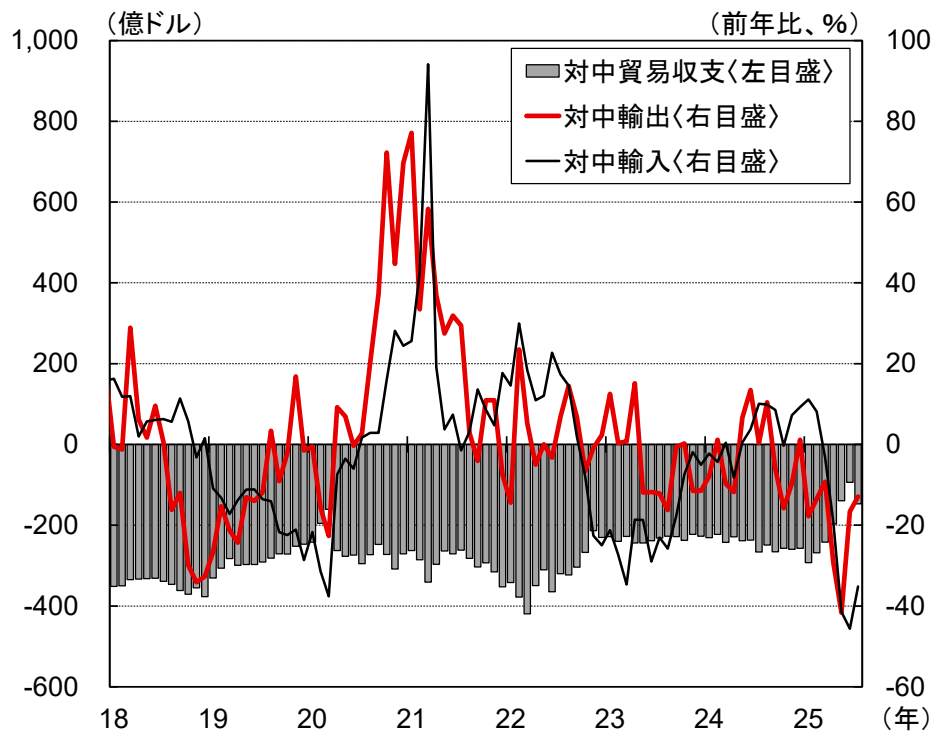
- 7月の貿易収支(財・サービス)は783億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+32.5%(同+192億ドル)と2ヵ月ぶりに拡大。輸出は同+0.3%(同+8億ドル)に対し、輸入は同+5.9%(同+200億ドル)と大幅に増加。前年比でみると、輸出は+3.4%、輸入は+2.6%。米国による新たな関税の発表を控え、企業が特に資本財の輸入を急いだとみられる。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、中国は7月に147億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比+56.7%(同+53億ドル)と6ヵ月ぶりに拡大。対中輸出(財)は同▲0.2%(同▲0億ドル)とほぼ横這いであったのに対し、対中輸入は同+27.3%(同+53億ドル)と6ヵ月ぶりに増加。前年比でみると、対中輸出(財)は▲12.9%、対中輸入(財)は▲35.2%と、輸入は大幅に減少。
- 対メキシコの貿易収支の赤字幅は166億ドル(赤字幅は前月比+2.2%)、対台湾は135億ドル(同+4.5%)、対カナダは54億ドル(同+449.3%)とそれぞれ前月から拡大。一方、対EUは86億ドル(同▲9.3%)、対日本は48億ドル(同▲16.2%)と縮小。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注) 国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注) 通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
(資料) 米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、9月5日に公表された雇用統計が市場予測を大きく下回り、利下げ観測が一段と強まった結果、4.0%近くまで低下。その後、9月17日のFOMCでは9ヵ月ぶりに0.25%ポイントの利下げが行われたものの、FOMC参加者の経済・物価見通しは上方修正されたほか、堅調な小売売上高等から景気は底堅く推移するとの見方が強まり、10年物国債利回りは上昇に転じた。
- ダウ平均株価は、9月以降は利下げ期待の高まりを受けて上昇基調で推移。9月17日のFOMCでは年内に利下げが続くとの見方が強まり、株価は最高値を更新。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できる
と思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により
保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp